

南日本新聞(令和五年 三月二十一日)

四年生 児童のの作品が紹介されました

黒糖しみもち

下水流小4年

私たち4年生は福島県のいいたて希望の里学園3、4年生とオンラインで交流しました。学校や地域の食について互いに発表しました。

特にうれしかったことがあります。私たちが送った「黒糖」で、希望の里学園の友達が地域の方と作った「しみもち」を味わったことを知ったからです。それを、「黒糖しみもち」と呼んでいます。

しみもちは東北地方などに伝わる保存食で、ふだんは焼いて、さとうじょうゆで食べるそうです。

今回はさとうの代わりに黒糖を使ったら、「今までで一番おいしかった」と言ってくれました。

私たちが地域の人と作った黒糖を喜んでもらったので本当によかったです。

希望の里学園の校長先生から東日本大しん災の話も聞きました。たくさんの方がなくなり、友達とはなればなれになりました。しん災の後に生ま

れた私たちも、地しんやぎせいになった人のことをわすれないことが大事だと思います。

福島の友達はボランティアもして、がんばっているそうです。私も負けないようにがんばります。(出水市)

3月17日(金)に、ルピナス倶楽部の方々を招いて、「黒糖しみもち」を試食しました。



鹿児島県下水流小とのオンライン交流1

下水流小学校4年生36名と本校3・4年生12名がオンラインで交流しました。

本校3年生は、ごんぼっぱの栽培と凍み餅づくり。

本校4年生は、いいたて学で花き農家について学んだことや下水流小からいただいた黒糖を使った凍み餅について発表しました。

下水流小学校の4年生は、鹿児島県や出水市に関わるご当地クイズを出題してくれました。

鹿児島と飯館村は、二千キロメートル離れていますが、オンライン上では近い存在、

それぞれの発表を聞きながら、自分たちの知らない地域のことを楽しく学ぶことができました。



希望の里学園ホームページより